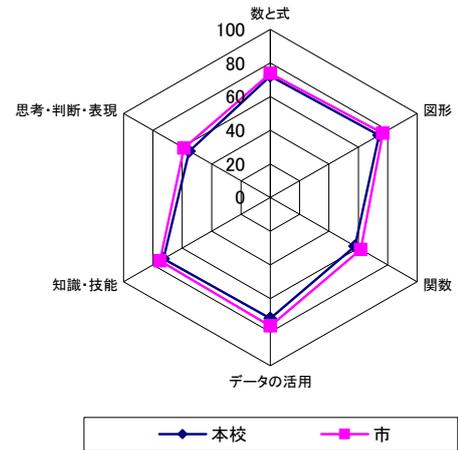


宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.2	73.8	71.4
	図形	74.1	76.7	67.9
	関数	57.8	61.6	52.2
	データの活用	71.8	76.4	65.4
観点別	知識・技能	72.7	75.2	69.9
	思考・判断・表現	55.2	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均正答率より1.6ポイント下回った。 ●$(x+a)(x-a)$の公式を使った展開をする問いでは、平均正答率79.5%と市の平均より4.6ポイント下回った。 ○連続する偶数を表す文字式についての問いでは、平均正答率が68.1%と市の平均より1.6ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ●乗法の公式や平方根の考え方が定着していないため、演習問題やAIDリルでの復習を通して理解を深め、知識の定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均より2.6ポイント下回った。 ●角の二等分線を作図する問いでは、平均正答率が64.5%と市の平均を大きく下回った。 ○平行線の同位角や錯角の関係をを用いて角の大きさを求める問いでは、市の平均を3.1ポイント上回っている。 ●多角形の内角・外角の和についての問いでは、平均正答率が、市の平均から7.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作図の問題に取り組む機会は、限られた期間のみのため、やり方を忘れてしまっている生徒が多くいると考えられる。そのため、定期的に、実力テストの前などの機会をとらえて復習を行う時間を確保し、定着を図るような授業を行う。
関数	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均より3.8ポイント下回った。 ●4つの領域の中で最も平均正答率が低かった。 ●問題文を理解し、どのお店を利用したほうが良いか判断する問いでは、平均正答率が市の平均を大きく下回った。グラフを読み取って、値を求めることができていない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関数では、比例・反比例(1年)、1次関数(2年)、$y=ax^2$(3年)の内容を学習するが、どれも共通して、条件に合う式を求めたり、グラフや表から式を求めたりする内容となるので、それぞれの特徴を押さえつつ、考え方を定着させていく必要がある。 ●関数のデータを正しく読み取るには、表・グラフ・式の関係性を正しく理解しておく必要があるため、日々の授業の中で、表・グラフ・式をイメージさせながら問題を解いていくように意識させて指導していくようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より4.6ポイント下回った。 ●確率を求める問題の平均正答率が、市の平均を下回っている。 ●度数分布表やヒストグラムの特徴を読み取り説明する問題の正答率が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●確率は、表を描いたり、樹形図を利用したりすることで、すべての場合の数が把握でき、簡単に答えを導きだせるようになるので、表や樹形図を使い慣れる必要がある。起こる事象を順を追って整理し、表または樹形図を必ず描いて解説をしていく指導を継続していく。 ●相対度数やヒストグラムなど、知識として知っておかなければならない内容の定着が十分にできていないので、演習を重ね定着させていく。